

VOI.79

ほのほの倶楽部

平成26年1月号



お花クラブとちぎり絵クラブボランティア作品から



編集・発行

社会福祉法人多摩済生医療団
多摩済生園・多摩済生ケアセンター
施設長 中村 与人

小平市美園町3-12-1
電話：042-343-2291

「初心にかえって」施設長 中村与人
去年今年貫く棒のごときもの
ことしに賭ける・ことしを駆ける
「力を合わせ胃瘦ゼロ」全国老人福
祉施設研究会議実践研究発表

初心にかえって



施設長

中村 与人

施設長職に就き、二年になろうとしています。この四月には、多摩済生医療団に入職して丸二十年になり、そして私も五十歳となります。福祉の世界に入ってから二十七年になりますか。定年六十歳時代でしたら、残り一〇年、仕事の最終章に入ったと言えるでしょう。

いろいろなことに悩み、考える時、最後に自らを納得させる答えは「初心にかえり」であり、そしてその時の気持ちを思い出すことでした。

障がい者施設での『笑顔』に支えられ

以前もこの広報誌で記載したことです。私が、福祉の世界に身を投じたきっかけには何ら積極的なものはありませんでした。大学卒業間近になっても就職が決まらず、当てのないまま門を叩き採用されたのが知的障がい者施設だったのです。

働いてみると、やはり甘い仕事ではありませんでした。イヤなことや辞めたいと思ったことも少なくありませんでした。それでも、この仕事を続けてきて良かった、と思えるのは、障がい者にしろ、高齢者にしろハンディを持ち、背負った人たちとの係わりと援助を通じ、人が人として生きることとは何かを考え教えられ、そのことにより自らが成長でき

たことではないかと思えますし、今でもそのことが実感できるからです。お金にしか価値観を見出せず、楽をすることばかり考えていた自分の人生を、大きく変えてくれた「モノ」が、福祉の仕事にはあった！と言っても過言ではありません。それは、言葉にすると嘘っぽくなりますが、利用者の「笑顔」でした。悩み、苦しみ、そして無力感、社会や制度に対する怒り、それらの気持ちを一瞬でも癒してくれたものが利用者の「純粋な笑顔」だったのです。利用者や家族の喜ぶ顔から「明日も頑張ろう！」「何とかしよう！」「というエネルギーを頂いたのです。そしてその方々のために、微力ながらも何かできるはずだ！と信じて歩んでまいりました。

介護保険制度で激変した福祉

自らの次のステップとして選んだところが、多摩済生医療団でしたが、当時の施設は、空調設備が今ほど整っておらず、特に夜間帯では利用者の居室以外の場所は冷暖房は全くなかったのです。いまの若者には想像すらできないでしょうが全館喫煙自由でした。利用者、家族、そして職員の多くが煙草を吸い、廊下やスタッフルームは煙草の煙と臭いが立ち籠め込みついていたのでした。僅か二十年前のことですが、隔世の感とはこのことを言うのでしょうか。職員は常にバタバタと走り回ってはいましたが、何となく「ゆるやかな、のんびり」とした空気が流れていたように思います。

そんな空気を一八〇度変えたのが、平成十二年から始まった介護保険制度でした。それまでの「措置

時代」では、職員の給与を含め運営資金は基本的に全て措置費と云う税金で賄われていましたが、それが文字どおり一変し、介護保険料と利用者の一部負担金によって運営をしていくことになったのです。措置費、即ち税金をお上の指図どおり使い、使い切るという、半官半民的な経営から、「介護サービス」の提供と「介護報酬」によって施設を経営し、独立採算を図るという一般企業やビジネスと同じ論理と行動が求められることになったのです。

大きな体制の変化とともにこれまで福祉の世界ではなじみの薄かった「契約」「請求業務」「介護認定」……等々の用語と仕事がいっぺんに押し寄せて来て、当時はまだまだPC化されていないこともあって、連日連夜不慣れなパソコン操作に職員が目を真っ赤していたことが思い出されます。

海外研修で学んだこと

介護保険導入の激変から落ち着いた平成十五年、今から十年程前になります。長年の疑問を解決すべく、デンマークでの一ヶ月研修に参加することができました。

これも以前の広報紙でも記してきたことなのですが、再度、このときのレポートを一部抜粋し掲載させていただきます。

★ ☆ ★ ☆

デンマークでの一ヶ月の研修で、現実を痛いほど知らされた。福祉の分野だけで考えてみても、どうすることもできない施設の広さや職員人数の多さ。〈中略〉

デンマークはいくつかの危機を乗り越え、現在も安定した「福祉国家」「生活大国」として世界第1位の地位に君臨している。資源も持たない農業国がなぜ生活大国になりえるのか？デンマーク人は誰に聞いても皆「子どもが資源なのだ！」と答える。小さな時からの「対話による相互作用」を基本理念とした『民主主義』を、こどもに伝えることにより「国」が豊かになる！というのである。

デンマーク人が何より大切にしてきた、そして現代社会を築いている全ての基本である『民主主義』の「自由」「平等」「共生」「透明性」という考え。「ノーマライゼーション」ということも、この考えの一であり、これらの流れの中で出てきたことなのである。・我が国、日本とは根本的なところから違うと感じた。

そして日本の現状に怒りを覚えるとともに福祉関係者に伝えたい思いがある！〜中略〜

研修でよく耳にする学者の「現場は本当に大変だと思ってもまたやれることはあるのでは？頑張りましょうよ！」と言う無責任な言葉。現場の職員にこれ以上オーバーワークをさせるようなことを言うのはもうやめませんか？

偉い政治家や学者先生が教壇から話しても「現場も知らないくせに、それなら自分でやってみよう！」という思いが現場職員の根底にはあるので、例えすばらしい講義を聞いたとしても心に響いてこなくなっている。

・我々福祉職員も知識を武器にし、教養を高めよう。先生と呼ばれる方たちにも負けないように！仕事以外ではそんなこと考えたくない、と言わず、声を上げていこう。政治家や学者先生が福祉現場を良くしてくれると思いますか？現場から発信しなくては！

「福祉先進国の教育制度と福祉の関連性〜ノーマライゼーションが育った障害者教育意識の実際と日本教育界の課題 について考える〜」 社会福祉士・精神保健福祉士海外研修・調査事業報告書二〇〇三年版より

★ ☆ 今なすべきこと

…とは言え、デンマーク帰国後から、放心状態がやや続き、考えることといえば社会に対する大きな疑問や問題点ばかりでした。「どうしたら日本の福祉を良くできるのだろうか？」そのためには政治を変えては！といった単純短絡思考と云うか、単に私憤を公憤にすげ替えた現実離れ、現実逃避であったのでした。

現在施設長として考えることは…大きな理想や夢を捨てるわけではありません！しばらくは頭の奥にしまつて置いて、何より足元の施設、地元地域の介護と福祉の環境を、ソフト、ハードの両面で少しでも改善改良することに努めなければとあらためて思い、思い直しています。福祉業界の方には、社会や制度を批判するだけの方も多くいます。しかし忘れてならないことは、同時に自らの足元の環境はどうなのか？ということでしょう。身近でやれることを実行していくことの方が、大切なことであり、難しいことでもあるのです。

私の身近な夢として、以前から思っていることがあります。日本の介護の仕事を「普通」の仕事にしたい！ということですが。この意味がわかりますか？日本が福祉先進国ではない一つの証明として、介護職が「特別」な仕事になっているということがあげられます。よく日本では介護職に就くと「大変な仕事なのに偉いね〜」と言われます。言外に「3Kで給料も安いのに！」の言葉が隠されているのです。

このことは機会ある毎に言わせて頂くことですが、日本では「福祉」が、美辞麗句というか善人として自らをアピールする免罪符として使われているのです。まだまだ「特別」なモノになっているのです。福祉先進国ではそんなことは決してありません。日本でも「福祉の仕事」が「普通」の仕事になるためには、職員の給与、待遇、周りの意識等々多くの問題を解決せねばなりません。それこそ大きく抽象的なことかもしれませんが、身近で実践でき得ることなのだと思います。

多摩済生園・多摩済生ケアセンターは、数百名のご利用者の施設介護と在宅介護に携わっています。その周りには更に多くのご家族がおられ、二〇〇余名の職員が働き、100名余のボランティアが支えて下さっています。まずは、利用者のご家族、地域の方々に「困った時はタマサイに！」と言って頂けるような地域に根差した施設作りを行ってまいります。そして、それを支える職員の待遇を少しでも良くしていくことに努めて行きます。それがケアの質向上につながるからだからです。これからも皆さまのご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。





12月20日地域ふれあい交流会クリスマスの集い



12月17日歌のクリスマスプレゼント



11月13日
スムージー作り
1階フロアー



去年今年貫く棒の如きもの

高浜虚子



12月27日年末恒例のビッグイベント



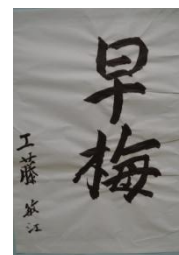
上
2013.12.30
高尾山々頂から
ダイヤモンド富士
下
2014.1.11
山中湖畔から
初春初富士



1月9日水曜喫茶室。新しくボランティアにTさん、Sさんのお二人がアシストくださることとなりました。



書き初め(書道クラブ)
と
初生け(お花クラブ)





1月15日 ちぎり絵クラブ



1月22日小平市立第14小学校6年生の皆さんが沢山の雑巾を縫って持ってきてくださいました。

11月21日 法人創立77周年記念式典において永年勤続表彰を受けました

★★勤続5年 13名★★

伊藤 理恵(地域包括看護師)
 仲西 美紀(介護福祉士)
 若月 江里子(居宅・ケアマネージャー)
 伊藤 加奈恵(栄養士)
 久野木 洋平(栄養士)
 坂本 隆行(介護職員)
 松尾 友美(介護福祉士)
 渡邊 恵(地域包括・ケアマネージャー)
 浜田 恵美(庶務係)
 五十嵐 博子(事務副主任)
 比嘉 和美(准看護師)
 池野 真由美(同)
 後藤 敦子(介護福祉士)



★★勤続20年 6名★★

松田 幸三(指導課長)
 及川 雄亮(介護福祉士)
 大林 聡(ユニットリーダー)
 金子 大介(栄養課主任)
 土屋 香織(介護福祉士)
 宮下 智之(ユニットリーダー)

★★勤続15年 2名★★

金原 正英(調理師)
 関口 一夫(デイサービス管理者)

★★勤続10年 3名★★

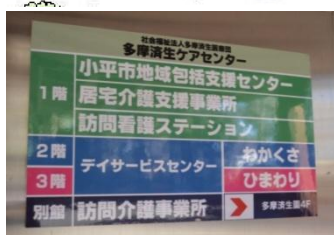
松尾 よし子(看護課長)
 宮田 佑一郎(フロアーリーダー)
 伊藤 高行(地域包括管理者)



■面接室



■地域包括支援センター(手前)と
 ■居宅介護支援事業所(奥)



電動自転車とスクーターを揃え、フットワークを強化しました。



■訪問看護ステーション

ケアセンター1階のレイアウトを一部変更しました

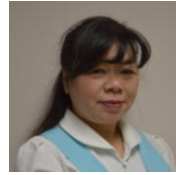


多摩済生園指導課長
居宅介護支援事業所管理者
松田 幸三

昨年7月から在宅部門を兼務させていただいています。長く施設サービスに従事して来ましたが、在宅サービスに携わってみて、あらためて地域の高齢世帯の実態とその光と影を肌で知ることとなり、それだけに我々に与えられた職責の大きさに身の引き締まる思いでした。地域福祉の拡充に微力を尽くして参ります。

看護課長

松尾 よし子



あけましておめでとうございませす。午年の馬のイメージは、駿馬(しゅんめ)や奔馬(ほんば)ですが、忙しさに走り廻り駆け廻るのではなく、ご利用者お一人一人とじっくりコミュニケーションがとれるよう、心にとりをもつて看護に取り組んでいきたいと思ひます。

主任生活相談員

中島 直美



多摩済生園での勤務も13年になりました。数え切れないほどのご利用者のご家族との出会いと別れの13年でしたが、その一つ一つの一期一会が私を育て、支え、「底力」を与えてくださいました。その感謝の念と、亡き母が残してくれた「ぬくもり」を大切に、大切に介護サービスの品質アップに励んでまいります。

ことしに賭ける



給食課主任
金子 大介

栄養士として多摩済生園給食課に勤務して20年になりました。マラソンに例えるまでもなく丁度折り返し点です。後ろを振り返る余裕はまだまだありません。「済生」の二文字に籠めた先人、先輩の遺志と意思と「初心忘れず」を胸にゴールを目指し汗を流します。



デイサービス(通所介護)管理者(主任生活相談員)
関口 一夫

介護保険制度ができて4年、多摩済生ケアセンターがオープンし21年目になります。いま、地域包括支援システムの構築と声高に言われている折、在宅介護の「老舗」としての経験とノウハウを生かし、もつと多くの皆様にご利用いただけるよう、より多彩で、より楽しんでいただけるメニューを考案し、提案して行きたいと思っています。



訪問看護ステーション管理者(主任訪問看護師)
平部 篤子

訪問看護ステーション開設時から勤務し13年になりました。当時はステーションとは名ばかりの園庭の隅に置かれたプレハブで中古の事務机が二つでした。「わたしを待っていてくれる人

がいる」の思いで自転車を漕ぎ続け、いま、50軒弱のお宅を定期的に訪問し、介護保険とともに医療保険や自立支援法によってでもご利用いただいています。ことしから若いスタッフが加わり6名のチームになりました。訪問介護と連携し、24時間見守り・見回りに取り組んでまいります。



訪問介護事業所管理者(主任サービス提供責任者)
関田 弘美

梅の蕾も膨らみ、春が少しずつですが近づいて来ています。

ことしは午年ということですので、わが町小平の地にしっかりと足をつけ、足腰を鍛え、皆様のお声と声なき声によりスピーディに、よりカイロドリーにお応えできるようスタッフ一丸となって“駆け回り”ます。どうか宜しくお願い申し上げます。



地域包括支援センター管理者(主任社会福祉士)
伊藤 高行

今年午年ですが、60年に一度の甲午(きのえうま)に当るので、新たな芽が始める年とも言われ、ものごとの始まりや旧弊との決別や改変を図るべき年とも差し迫った超高齢化社会を前に社会のセイフティネットの在り方と介護保険制度の持続可能な再構築が問われています。私たちがなすべきこととは一つ一つの事例に誠実に向き合い、一日一

日最善最良のサービスを提供して行くことです。



フロアーリーダー
井村 謙吾

昨年は7月に子が授かり3児の父になりました。「子を持って知る親心」でしょうか、親の子としての感謝と子の親としての責任を実感しているところです。仕事の責任もも重くなつて来ました。心新たに、気を引き締めて新しい1年を駆けていきたいと思ひます。



フロアーリーダー
村山 裕理

明けましておめでとうござい
ます。今年とはかく元気に仕事をしたいと思
います。少々メンタルが弱い自分にとつては大
きな課題ですが、「フロアー全体を笑顔で包み
明るく照らす」ほどの意気込みで頑張ります。
どうかよろしくお願いいたします。



フロアーリーダー
宮田 佑一郎

「駆ける」を辞書で引くと、馬
で走る、疾走する、進む、進撃する…等々とあ
つて駆けるとも書く出ていました。一方「賭
ける」は、元々は掛けるや、懸けると書き、競
馬にかける、ペテンかける、願ひ、望みをかけ
る…等々数え切れない程用例が載っていました。

ことしを駆ける

二つとも私には少々荷が重すぎるタイト
ルですが、馬車馬のように走るのでも、ウ
マク立ち回るのでもなく、ゆっくりまっ
すぐ駆けて行きたいと思ひます。



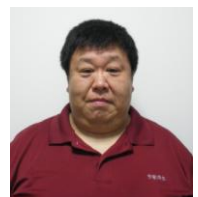
ユニットサブリーダー
川崎 悠子

私が、今年を駆け、今年
に賭けるのは、「資格取得」の一語です。
まずは介護福祉士資格と管理栄養士試験
合格！です。チャレンジ精神だけは人一
倍？なのですが、いつの間にかあした、
あしたにしようになつてしまい、その繰
り返しでした。仕事の手抜きは許されま
せんが、勉強の方も集中力を高め、こと
しこそ「合格！」したいと思ひます。



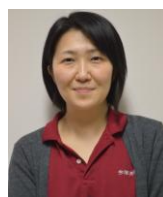
ユニットリーダー
大林 聡

新年明けましておめでと
うござい
ます。多摩済生園にユニット施設が開設されて
6年目をこの4月に迎えます。10名単
位の和やかな生活空間の中、ご利用者の
皆様が平穩に、かつ生き生きとかけがえ
のない「日一日を過ごしていただけるよ
う、ケアサービスの改善、改良に努めて
いきたいと思ひます。



ユニットリーダー
宮下 智之

昨秋多摩済生園勤続20年の
表彰を受けました。21年目のことし、心新た
にいままでの仕事を見直し、見つめ直し、ご利
用者の生活の質を高め、保障する介護サービ
スを提供して行けるよう努力を続けます。



ユニットリーダー
岡田 美鈴

介護職に就いて10年目を迎
えます。十年一昔というのはそれこそ昔の話で、
今のスピード時代、振り返ったり懐かしく思っ
たりする余裕すらないように思ひます。馬の走
りは私にはできません。牛の歩みしかできませ
ん。ご利用者と歩調を合わせ、一日一日を噛み
しめ踏みしめ歩んで行きたいと思ひます。



指導課副主任
田中 伸一

馬の耳に念仏、あるいは馬耳
東風を絵に描いたような男だとよく言われます。
心当たりがないわけではありませぬ。性懲りも
なく反省しては同じ過ちの繰り返しですが、「驥
(き)は一日にして千里なるも騊(たう)も十賀
(日)もすればすなわちまたこれに及ぶ」、つまり
「継続は力なり」、「千里の道も一里から」をモ
ットーとし、信じるのみです。

性別：男性 Iさん
 年齢：88歳
 介護度：5
 ⇒平成24年12月中旬に胃瘻増設

対象者紹介



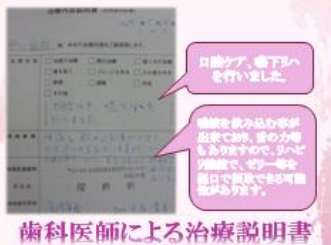
自立支援介護

多摩済生園

力を合わせて胃瘻ゼロ



～多職種協働による～
（医師・歯科・理学療法士・言語聴覚士）
 総指導 中村 与久
 実施者 川崎 悠子
 佐々木 祐子



歯科医師による治療説明書

口嚙みア、嚥下ア
 を行いました。
 嚙み込みの力が
 弱いため、舌の力も
 弱いため、アヘビ
 の歯で、アヘビ
 の口で食事ができ
 なくなりました。

ご本人、ご家族の想い
 近隣歯科の協力

⇒多職種協働による経口摂取訓練開始

取り組みのきっかけ

平成 25 年 12 月 18 日、沖縄県宜野湾市にて開催され
 た全国老人福祉施設研究会にて実践研究発表を
 おこないました。

・歯科医師による口腔機能の評価と訓練
 ⇒毎週歯科医師に嚥下アヘビ・評価を
 行って頂き、訓練内容の見直しをし
 ました。
 ・歯科医師・看護師・栄養士・介護士
 による食事内容の検討

評価を週1回行い情報の共有

参加者：ご利用者・ご家族
 歯科医師・主治医・Ns・PT・栄養士・
 介護職員

【内容】
 ・過ごし方を含めた生活全般を再アセスメント。
 ・訪問歯科医の専門的なアセスメントを共有。
 ・経口摂取に向けた具体的な訓練内容検討。

カンファレンスの開催

- 〈1〉カンファレンスの開催
- 〈2〉週1回の評価と情報共有
- 〈3〉機能訓練の実施
- 〈4〉経口摂取訓練の開始と
食事内容の見直し
- 〈5〉日中の過ごし方

具体的取り組み

- ◆舌の筋力負荷訓練と空嚥下、笛吹き
- ◆頭部挙上訓練
- ◆アイスマッサージ

訓練内容の見直し



舌の筋力負荷訓練と空嚥下

1. 舌のマッサージ、唇のマッサージを行う。
2. 顔面マッサージ 頬、口唇周囲
3. ロの顔開きしてもらう(5回)
4. 舌を出したり、引込めたり、上下左右に動かして貰う
5. グローブをつけ口腔内に指を入れる。
6. 頬を握らさせる時に伸ばす。(左右、上下5回以上/3セット行う)
7. 唾液が出たら嚥下を促し飲み込んで貰う。
8. 口腔内全体をマッサージ(5回)
9. 人差し指を取って貰う(指しゃぶり)
10. 水につけたスプーンの背で頬の内側の上唇を刺激する(5回)

口腔訓練内容



機能訓練、過ごし方見直し



時期	食事内容	状況
6月15日	食券メニュー1種	経口摂取訓練開始。
6月17日	食券メニュー1種+ フルーツデザート、プリン、ヨー グルートの中から1品を選択	経口摂取の進捗を確認し、6月17日 以降には、ほぼ全量経口的に食 べた。
7月15日	食券メニュー1種	6月15日に比べて経口摂取の進 捗を確認し、ほぼ全量経口的に食 べた。
8月1日	ソフト食メニュー1種+メニュー メニュー1種+フルーツデザート デザート	経口摂取の進捗を確認し、ソフト食+デザート がほぼ全量経口的に食 べた。
8月7日	ソフト食メニュー1種+デザート デザート	経口摂取の進捗を確認し、ソフト食+デザート がほぼ全量経口的に食 べた。

経口摂取・食事内容検討

ご利用者・ご家族のご承認に基
 づき発表し、スライドの本誌へ
 の掲載をおこないました



即治聴有難う御座いました。

Iさんの変化	実施前	実施後
体重	32.2kg	35.4kg
BMI	16.9	18.3
移動動作	歩行杖使用あり	杖介助
排便頻度	終日オムツ	日中トイレ
その他		Smile 増加

スタッフの変化
 ・Iさんの変化に伴い、スタッフ間で経口摂取訓練を
 積極的に行おうとする決意が生まれた。
 ・多職種協働による連携の必要性が、ケアを継続
 的に行うことで結果が再確認されることを再認識できた。

まとめ

- ◆入所時から多職種協働で協議し個別ケアに努める
- ◆胃瘻ゼロに向け、施設全体で取り組む必要性
- ◆胃瘻増設しない為、口腔ケア、口腔訓練の充実
- ◆胃瘻増設には十分なが管理のもとで、早期に経
 口訓練を組み合わせたアプローチの必要性

課題